

地 域 再 生 計 画

- 1 . 地域再生計画の申請主体の名称 静岡県駿東郡小山町
- 2 . 地域再生計画の名称
交流人口拡大による地域再生計画
- 3 . 地域再生の取組を進めようとする期間 平成 16 年～平成 20 年
- 4 . 地域再生計画の意義及び目標

小山町は、標高 300m から 3,766m 即ち富士山頂までを町域とし、また首都圏から 100km 圏内にあり、静岡県内では最も都心に近い位置にあります。基幹道路（東名高速道路・国道 246 号・138 号・東富士五湖道路）にも恵まれ、また富士登山客はもとより富士霊園、富士スピードウェイ、町内 12 個所のゴルフ場等民間観光施設もあることから、観光交流客数は静岡県内でも常に上位にあります。しかし、基幹道路に恵まれてはいるが、ただ通りすぎるだけの道路としての性格が強く、また民間観光施設に恵まれ観光交流数は多いがその経済効果が地域住民にとっては実感がありません。

そこで、小山町の地域資源を活用した観光交流空間をつくり、次の地域資源を活かした地域再生計画を実施します。

小山町では平成 16 年 10 月に国道 246 号に道の駅「ふじおやま」を開設し、交流数に見合った経済効果が実感できる拠点を整備しています。さらに、国道 138 号にも平成 20 年を目標に道の駅を開設していきます。

また、平成 14 年に設置したフィルムコミッション委員会が実施している映画やドラマの撮影協力は、今後、通達に沿った形での道路使用することにより県道や町道に面した明治から大正時代をほうふつさせる工場の壁や、昭和初期の建物の前面道路での撮影等が可能になり、地域経済に大きく貢献することが見込まれます。

更に、平成 16 年 10 月に開催予定の第 1 回国際ヒルクライム Mt. 富士サイクルロードレースは単発的なイベントではなく継続開催も可能であり、地域の地形的特長をいかし、また国際的イベントであります F1 の開催をめざして、平成 17 年にリニューアルオープンする富士スピードウェイとの連携により様々なジャンルのサイクルイベントを網羅した「オールサイクルフェスティバル IN 小山」の実現をめざします。フィルムコミッションや国際ヒルクライム大会の開催は、地域経済の活性化はもとより、小山町の知名度の向上にも大きく寄与すると考えております。

平成 17 年に整備が予定されています足柄スポーツ広場を活用し、サッカー大会の開催を増加させると共に、農業体験や環境学習がセットされたスポーツ交流イベント等を開催し、新たなスポーツ交流事業にも取り組み、交流人口の拡大を図ります。

5．地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

小山町の過去 4 年間（平成 11 年度から平成 14 年度、15 年度分現在集計中）の平均観光交流客数は 300 万人であり、その内宿泊客数は 7 万人となっておりますが、平成 20 年の目標であります観光交流客数 345 万人は、平成 16 年 10 月に開設される国道 246 号道の駅「ふじおやま」の利用者数 30 万人と富士スピードウェイのリニューアルオープンによる来場者数 15 万人が見込まれます。

地域に実感のある交流人口を拡大するために、現在 7 万人の宿泊客数（富士山関連客）を平成 20 年には 8 万人を目標といたしますが、その内訳はフィルムコミッションによる宿泊客数現在年間約 300 人ではありますが、平成 20 年には 1,000 人を見込み、また国際ヒルクライム大会による参加募集定員は 1,000 人ではありますが、2 年目以降参加募集定員を増やしつつ、全日本実業団自転車協議会連盟主催の「個人タイムトライアル選手権大会」の誘致や「オールサイクルフェスティバル IN 小山」を計画し年間 4 千人の宿泊客数を見込んでいます。

また、平成 17 年にスポーツ広場整備を実施し平成 18 年度にはスポーツ交流事業を実施し当初はサッカーの大会を年 4 回（1 回 3 2 チーム参加）程度開催していきませんが、年々大会回数を増やし、また新たなスポーツ交流事業を実施することにより宿泊客数の増加を図ります。

6．講じようとする支援措置の番号及び名称

- 201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- 208001 地域づくりアドバイザー機能の強化

7．構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業 ・交流空間づくりによる地域再生推進プログラムの策定事業（県単補助）

小山町地域再生計画の推進のための内、スポーツ交流人口拡大とフィルムコミッションによる宿泊客数について、平成 16 年度に地域づくり団体、NPO 法人、ボランティア団体等から構成されるワークショップを開催し、フォローアップ調査する仕組みを策定します。

・国道 138 号「道の駅」基本計画・整備計画等の策定

交流人口の更なる拡大を目指し、平成 20 年に「道の駅」の開設を目標に基本

計画・整備計画等について須走地域まちづくり協議会を設置し、地域住民との協働作業により実施する。

8 . その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

別紙

1. 支援措置の番号及び名称

201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2. 当該支援措置を受けようとする者

小山町フィルムコミッション委員会

国際ヒルクライム実行委員会

3. 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

小山町フィルムコミッション委員会は委員会を設置する以前から産業観光課や小山町観光協会が中心に、NHK大河ドラマ「翔が如く」や黒澤明監督の「影武者」等数々の映画やドラマの製作において、必要なエキストラの募集と手配、ロケ地周辺の住民への協力依頼、更には道路や公園等の公的施設や民間施設に係る撮影許可について可能な限りのサポートを行ってきました。

近年、フィルムコミッションの活動が地域経済の活性化に大きく貢献していることが地元商工業者から支持され地域の協力体制も確立され、平成14年に小山町フィルムコミッション委員会が構成されました。

平成14年に469万円、平成15年には517万円、平成16年5月までで既に1,095万円（別紙委員会作成ロケ協力経済効果集計表）が直接町内旅館業、商店会、建設業等に消費されています。現在は、月2本のペースで映画やドラマ等の撮影に協力しています。今後、県道や町道に面した明治から大正時代をほうふつさせる工場の壁や、昭和初期の建物の全面道路での撮影等が見込まれているところであり、その際、当該支援措置に関して発出された通達に基づき、地域住民や道路利用者等の合意形成の円滑に努めていきたい。

国際ヒルクライム実行委員会（仮称）

平成16年1月に（財）日本サイクリング協会・（有）アール・アンド・アイより小山町の富士登道（通称県道ふじアザミライン）を大会会場として、第1回国際ヒルクライムMt.富士（サイクルロードレース）開催企画が提案されました。

町といたしましてもその開催主旨や開催目的が小山町の町づくり基本方針に合致していることから、その開催にあたり積極的に支援していくこととなりました。大会開催にあたり、当該支援措置に関して発出された通達に基づき、地域住民や道路利用者等の合意形成の円滑に努めていきたい。

別紙

1．支援措置の番号及び名称

208001 地域づくり支援室などアドバイザー機能の強化

2．当該支援措置を受けようとする者

小山町・足柄 FC

3．当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

足柄 FC は平成 12 年より、地区内の小学生を対象にサッカー指導をするための団体として設立し、活動を続けてきました。近年サッカーの指導をするかたわら大会の主催運営を計画するなど活動範囲を拡大しています。平成 16 年度中には特定非営利法人の設立申請の手続きをする予定である。

足柄 FC はサッカー大会の企画運営や新たな地域振興に資するスポーツイベントを平成 17 年度に整備が計画されている足柄スポーツ広場を拠点として計画し、現在独自で調査や勉強会を行っています。

団体の課題として、スポーツを通じた地域づくりのノウハウや人材の育成、先進的な取組事例等の情報や支援制度について研究や調査に苦慮していることから、小山町の地域再生計画に位置づけた上で、地域づくり支援室などに相談しながら、スポーツの振興による地域づくりと農業体験、環境学習、野鳥観察等とスポーツイベントがセットされた新たなスポーツ交流事業に取り組めます。